

令和4年度 「釜石・宮古地域出前職能集会」を開催いたしました。

日時：令和5年2月4日（土）13:30～15:50

内容：1.講演「患者の急変を予測するための早期警戒スコアについて」

講師：岩手医科大学附属病院 集中ケア認定看護師 田村ヤス子氏

2.意見交換 ①「患者の急変予測 できていますか」②「病院と地域の連携について語ろう」

参加者：20名参加（4病院：10名 看護師職能Ⅰ：5名 看護師職能Ⅱ：5名）

今年度の釜石・宮古地域出前職能集会は感染予防と雪の季節であることを考慮し、昨年度と同様にオンラインでの研修開催となりました。

講演では、患者の重症化予防を目的とした「患者の急変を予測するための早期警戒スコア」について学びを深め、患者の状態変化を早期に認識するためには、普段行っているバイタルサイン測定の精度を上げることが重要であることに気付かされました。測定機器にだけ頼らず、呼吸数の観察や触診なども大切であり、「いつもと違う」という看護師の経験値による判断に根拠を与えるものであり、自施設のスタッフへも伝達したいと思える研修内容でした。

意見交換は2点について語り合いました。一つ目のテーマである「患者の急変予測できていますか」については、酸素飽和度など機器に頼っている部分があり、呼吸数や呼吸状態など観察していくことが大切であることを再認識しました。早期警戒スコアは急性期の病院だけでなく、高齢者やDNARの患者が多い施設や慢性期の病院においても、ご家族に連絡する等の”看取りのタイミング”を客観的に判断する場面での活用が可能であり、現場で活用してみたいと講演の話題で盛り上がりました。もう一つのテーマである「病院と地域の連携について語ろう」については、圏域内での転院が多く、事前の情報交換も行われており、スムーズに連携が進められていました。困難事例については、社会福祉士など多職種を含めた入退院調整会議を毎日行っているなど、他施設での受け入れの現状を知る機会となりました。

参加された方からは、「若いスタッフに聞いて欲しい」「コロナ禍で研修の機会が少ないので、他の施設の状況が聞けて良かった」「現場に活かせる内容だった」との声が寄せられるなど、有意義な時間を過ごすことができました。

※ 複数年かけ全ての地域において出前職能集会を開催し、交流を深めて参りました。県内を一巡いたしましたので、今回をもちまして地域出前職能集会企画は終了させていただきます。

ご協力頂きました各支部の皆様にご感謝申し上げます。

★田村先生からの講義場面です。



★意見交換発表会の場面です。

